## 企業

# ネットワークから生まれた復興支援

横浜市

前田 圭一郎 有限会社 GMP 創房

取材日 2013.11.08

技術士。東日本大震災後、「持続可能で安心安全な社会をめざす新エネルギー活用推進協議会(JASFA)」で東松島市 の復興支援活動に取り組む。阪神・淡路大震災では神戸市の長田地区の産業復興支援にも関わった。

#### 1995年1月17日 5時46分 (阪神・淡路大震災)

大学を卒業するまで大阪で過ごしたが、仕事の関 係から横浜市で生活していた。たまたま朝早く目 覚め、ニュースを見ると「淡路島を震源地とする マグニチュード7.2の大地震が発生した」と速報 が入った。家族や友人の安否が心配になり、すぐ に家族や知人に電話をかけると、電話はつながり、 無事を確認する事ができた。無事が分かった事で 安堵し、その時点では事態の深刻さを意識してい なかったと思う。

さらに今思えば、当時は設計事務所に在籍し、建 物の耐震性能などの情報に触れる機会が多かった ものの、地震の怖さを一面的、それも頭で理解し ていただけで、地震による被害の深刻さや生活へ の影響についてまったく想像力が及んでいなかっ たと思う。しかし、次第に阪神高速がばったりと 倒れている様子など地震の被害状況が分かるにつ れて、「大変な事が起きたのだ」と認識した。

発災後、当時、専修大学商学部助教授だった地域 産業論・中小企業論の専門家の関満博先生(現在 は明星大学経済学部教授・一橋大学名誉教授/フ ルセット型産業構造を越えて(中公新書)など著 作多数)と地域の産業支援に関わっていた事から、 「ボランティアで復興支援をしよう」と声をかけ てくださった。神戸市の長田地区を中心に本格的 に復興支援へ携わる事になった。

長田地区は靴の生産が盛んな地域である。当時、 長田で生産されていた靴は、人工皮革や樹脂を用 いた量販店に並ぶような安価な靴である。零細な 家内工業を中心にした複数の中小企業の分業によ る生産構造で、個々の企業が有機的に結びつき、 町全体が工場のようになっていた。阪神・淡路大 震災で壊滅的な被害からどう復興するかを考えた 時、新しい靴のブランド化・靴の町としての再生 を目指す事をビジョンとした。関先生が気心の知 れた仲間を集め、神戸市や企業も巻き込みながら チームを作り、復興のビジョンや計画に対してさ まざまな提案を行なった。地域の産業振興、起業



の促進、地域コミュニティ活動の拠点となる事を 目的に、靴を中心にした産業支援機関である「く つのまちながた/シューズプラザ」を立案した。 展示スペース、ショップ、オフィスなどから構成 される施設である。

神戸市の担当の方と調整しながら、地域の中小企 業の方に集まってもらい、意見交換会を開いて、 「今後、我々はどんなまちを目指すか」を議論した。 当時の想いからは変わっている事もあるが、この 施設は現在も稼働中である。

阪神・淡路大震災で復興支援に携わり、地域産業 と地域コミュニティがどれだけ結びついているか を思い知らされた。震災を機に区画整理が行なわ れた事で、震災以前まで住んでいた方々が住めな くなってしまった地区もある。産業を担ってい た「人」がいなくなると、産業は衰退し、地域が まさしく壊れてしまう。そうした問題が現実に起 こった。地域の経済は地域のコミュニティで成り 立っている。地域コミュニティを残して活性化さ せる事への想いが強くなった。地域のコミュニ ティの重要性はよく指摘されるが、阪神・淡路大 震災の経験によって、自分の考えの浅薄さや思慮 の足りなさを感じた。生業とはいろいろな要素と 複雑に絡み合っているのだと改めて思う。

#### 3月11日 14時46分

川崎市の仕事先で打ち合わせをしている最中に地震が来た。相当揺れたため「大きい」と感じたが、揺れ方から震源地は離れた場所だと思った。棚から物が落ちる事もなく、たいして慌てなかった。その時は震源地も分からず、「震源地の近くでは被害が大きいかもしれない」と想像したが、深刻には考えていなかった。

すぐにテレビをつけると、「東日本で大地震が発生した」と速報が出ていた。津波の映像を目の当たりにした時は、言葉が無かった。もちろん知識として頭では分かっていたが、「こんな事が起こるのか!」と我が目を疑った。

東日本大震災の事態を知って、すぐに神戸の事を 思い出した。何かきっかけがあり、もし自分がお 手伝いできる事があれば、ぜひ役に立ちたいと 思った。神戸における活動では、知恵が足りなかっ たと感じていて、神戸でできなかった事や神戸で 得た教訓を活かせるのではないかと考えた。

### 中小企業の新たな協議会

地震後、仙台に本社を構える株式会社馬渕工業所 の小野代表取締役に、安否確認のメールを送っ た。おそらくしばらくはメールも通じないだろう と思ったのだが、「今度上京する」と返信が来た。 馬渕工業所は建築やライフラインなどの設備工事 を行なう会社だ。復旧支援に追われるかもしれな い厳しい状況の中で、わざわざ東京に来るとは、 小野さんには何か考えがあるのだろうと思った。 まだ新幹線が復旧していない頃、小野さんは高速 バスに乗って東京にやって来た。「東京で久しぶ りに風呂に入ったよ」と笑った。本当に東京へ来 た小野さんを見て、「向こうはまだ大変だろうに、 こんな事をする人なのか!なんて人だ!」と驚い た。その後、小野さんから「東北の研究者や中小 企業などを中心とした『持続可能で安心安全な社 会をめざす新エネルギー活用推進協議会(JASFA) \*』を立ち上げる」と聞いた。話を聞いて、はじ めは、一緒に取り組むつもりはなかった。NPO や協議会など、非営利の組織に良い印象を持って いなかった。なぜなら多くは責任の所在が曖昧 で、うまくいっていない例が多いと感じていたか らだ。

※持続可能で安心安全な社会をめざす新エネルギー活用推進協議会(JASFA)…「持続可能」で「安心安全な社会」形成を目指す。「新エネルギー」を個々の暮らしや事業体の改善、地域づくり・まちづくりに導入するため積極的に産学官の研究知財を応用し、地域社会に普及促進が図れる技術の発掘と活用推進を目的として、宮城県東松島市を中心に活動している。



宮城県東松島市 浜市小学校体育館(被災後)



撮影:2012.6.5 東松島市旧浜市小学校 NPO法人児童養護施設支援の会とともに整備

### 想いの結びつき

東日本大震災が発生してから半年後、小野さんと 一緒に宮城県の東松島市野蒜地域を訪れた。発災 してすぐの頃より瓦礫はある程度片づいているの だろう。道路も普通に走る事ができた。しかし、 多くの建物が破壊された状態で残り、まだまだ片 づいていない状況だった。街がバッサリと平面的 になり、広範囲で被害を受けている。野蒜地域を 訪れた時の衝撃は大きかった。現地を見る事は重 要だと思う。

被災した直後の緊急支援については、僕は力になれない。しかし、神戸の産業復興支援の経験がある僕は、復旧の後の復興にどう関わる事ができるだろうか。小野さんと一緒に野蒜地域に入ってブレーンストーミングする中で、JASFAについても「この人は本気なのだな」と感じ始めた。また、実際に被災地を見た事で、自分の中でだんだんJASFAの取り組みと「何かできる事があるなら、

企業

とにかくやってみようかな」という想いが結びついてきた。

#### 再牛のプロセス

JASFA は被災地域で求職中の方々を対象に、就 労支援講座を開催してきた。2012年7月、東松 島市の被災した浜市小学校で、太陽光発電システ ム施工の基本技術を学ぶ市民講座が開講した。太 陽光発電は今後、需要の高まりが期待されており、 講座開設を通じて環境先進地作りに弾みをつける と共に、新たな雇用の確保も目指している。

太陽光発電工事専門の学校を作ると計画した時、 東松島市の協力で浜市小学校の体育館と教室を施 行実習の会場とする事となった。最初に小野さん と見に行った浜市小学校の衝撃的な光景は忘れら れない。体育館の床は泥だらけで波打ったように 歪み、14時46分で止まったままの時計が残され ていた。NPO法人児童養護施設支援の会の高橋 事務局長をはじめとするたくさんのボランティア が協力し、床板の撤去や床を支える基礎の撤去、 ヘドロの除去を行なった。その後、床をコンクリー トにして模擬の屋根を設置し、東北地方の屋根材 に合わせた太陽光発電システム施工技術が学べる 実習会場を作った。その再生のプロセスは非常に 心に残っている。具体的な形となって学校として 動き出した事は、大変嬉しい事だ。これまでの就 労支援事業には多くの企業が講師として参加し、 受講生の就職に結びついている。

### 互いの資源を組み合わせ より良いビジネスを

僕が最初にJASFAへ抱いた印象は間違っていた。 JASFAの活動は良い方向へ向かい、成果が出始めている。小野さんのキャラクターによるところは相当大きいが、良い仲間が集まり、シナジー効果が生まれている。

一方で、まだまだ仲間が足りないと感じている。 気持ちを一緒にして取り組める仲間がもっとたく さん欲しい。被災地と全国から想いのあるたくさ んの方に集まって欲しい。そして、ビジネスを生 み出し、食べていく事ができる場を作りたい。関 西、九州、東北など全国各地の企業が集い、それ ぞれ足りないものがあるならば、互いの資源を組 み合わせ、より良いビジネスを生み出していきた い。それが、JASFAや僕の会社の目指している ところだ。そのためにネットワークをもっと大き く広げていきたい。



宮城県東松島市 浜市小学校(学校開校準備)



撮影: 2013.12.16 東松島市旧浜市小学校 就労支援講座のための模擬屋根視察



撮影: 2013.3.11 HOPE連絡会